

伊丹ルーテル教会 復活節第六主日礼拝

2020年5月17日

父と、御子と、聖霊の御名により、**アーメン**。

前奏：「我が命なるキリスト」

招きのことば：詩編 66 編より

全地よ、神に向かって喜びの叫びをあげよ。御名の栄光をほめ歌え。栄光に賛美を添えよ。

来て、神の御業を仰げ。人の子らになされた恐るべき御業を。

神は我らの魂に命を得させてくださる。我らの足がよろめくのを許されない。

神を畏れる人は皆、聞くがよい わたしに成し遂げてくださったことを物語ろう。

神に向かってわたしの口は声をあげ わたしは舌をもってあがめます。

神をたたえよ。神はわたしの祈りを退けることなく 慈しみを拒まれませんでした。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆：私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。

思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんください。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。 (短い黙祷を持ちましょう)

牧師：何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。

ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン**。

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、

ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、

父なる全能の神の右に座したまえり。

生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、

からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 **アーメン**。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたはあなたの御子イエス・キリストによってご自分をあらわしてくださいました。イエス様によって私たちは罪を赦され、新しいいのちを与えられました。そして今は聖霊によってイエス様のお語りくださった約束を信じて歩む幸いを与えてくださって心から感謝をいたします。今朝も復活の主を信じる信仰で満たしてください。

新型コロナウイルスの感染を心配する不安な日々が続きます。私たちを助けてください。病気の治療にあたってくださっている方々、生活の必要なものをみんなのために整えて日夜働いてくださっている方々の疲れを癒やし、お支えください。家庭生活、学校の生活、お仕事において私たちを導いてください。

今週もビデオやプリントによって、私たちは別々のところで同じ礼拝にあずかります。この礼拝ができるようにかげにあつて力になってくださった方々を祝福してください。私たちは復活の主イエス様のみ言葉を聴きます。どうぞお語りください。

この祈りを私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

使徒書朗読：第1ペテロ 3:13-22

もし、善いことに熱心であるなら、だれがあなたがたに害を加えるでしょう。しかし、義のために苦しみを受けるのであれば、幸いです。人々を恐れたり、心を乱したりしてはいけません。心の中でキリストを主とあがめなさい。あなたがたの抱いている希望について説明を要求する人には、いつでも弁明できるように備えていなさい。それも、穏やかに、敬意をもって、正しい良心で、弁明するようにしなさい。そうすれば、キリストに結ばれたあなたがたの善い生活をののしる者たちは、悪口を言ったことで恥じ入るようになるのです。神の御心によるのであれば、善を行って苦しむ方が、悪を行って苦しむよりはよい。キリストも、罪のためにただ一度苦しめられました。正しい方が、正しくない者たちのために苦しめられたのです。あなたがたを神のもとへ導くためです。キリストは、肉では死に渡されましたが、霊では生きる者とされたのです。そして、霊においてキリストは、捕らわれていた霊たちのところへ行って宣教されました。この霊たちは、ノアの時代に箱舟が作られていた間、神が忍耐して待っておられたのに従わなかった者です。この箱舟に乗り込んだ数人、すなわち八人だけが水の中を歩いて救われました。この水で前もって表された洗礼は、今やイエス・キリストの復活によってあなたがたをも救うのです。洗礼は、肉の汚れを取り除くことではなくて、神に正しい良心を願い求めることです。キリストは、天に上って神の右におられます。天使、また権威や勢力は、キリストの支配に服しているのです。

福音書朗読：ヨハネ 14:15-21

「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてくださる。この方は、真

理の霊である。世は、この霊を見ようとも知ろうともしないので、受け入れることができない。しかし、あなたがたはこの霊を知っている。この霊があなたがたと共におり、これからも、あなたがたの内にいるからである。わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きているので、あなたがたも生きることになる。かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。わたしの掟を受け入れ、それを守る人は、わたしを愛する者である。わたしを愛する人は、わたしの父に愛される。わたしもその人を愛して、その人にわたし自身を現す。」

説教「永遠にあなたがたと一緒にいる」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、み言葉をとりつぎます。

動画やプリントであずかる主日の礼拝に慣れてこられたでしょうか。ご一緒に集まってともにみ言葉を聞くこととは違う物足りなさ、寂しさもあると思います。今朝もよみがえられたイエス様が私たちひとりひとりをかえりみていてくださることを覚えましょう。復活の主をおぼえるご挨拶をしましょう。

「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

イエス様は十字架にかけられ、死んで葬られました。そして予告しておられた通り3日目によみがえって下さいました。よみがえられたイエス様はその後40日間、弟子たちにあらわれて励まして下さいました（使徒1:3）。

使徒の働き1章9節には、使徒たちが集まっているところでイエス様は最後のお話をされて、彼らの見ているうちに天にあげられ、雲に覆われて彼らから見えなくなった、と記されています。イエス様が天に昇って行かれた、ということで昇る天と書いて昇天といいます。私たちが死んで主のみもとに召されることは同じ音で召天といいます。こちらは天に召される、という字を書きますね。お墓からよみがえられたのが日曜日でしたから、40日後は5週間と5日後、今年ちょうど今週の木曜日がイエス様の召天日に当たります。そのとき弟子たちは天を見つめて呆然としていました。すると白い衣を着た二人の人がそばに立って「イエス様が天に行かれるのを見たと同じありさまでまたおいでになります。」と告げました。

お弟子たちはよみがえられたイエス様が共にいてくださってとても心強く思ったことでしょう。しかし、イエス様が天に昇ってしまわれたらまた寂しい、心細い毎日が返ってくることになったのでしょうか。

今日ご一緒に開いているヨハネによる福音書 14 章では、イエス様は十字架にかかる前の最後の晩餐のときに、すでに、父なる神様をお願いして真理の御霊、聖霊をあとで遣わして下さるようにしたといわれています。イエス様が昇天したとき、弟子たちはイエス様に見捨てられてみなしごのようになったのではなく、父なる神様から遣わされて永遠に弟子たち、イエス様を信じるものと一緒にご一緒にいて下さる聖霊が遣わされるというイエス様の約束を信じて、エルサレムで集まって祈っていました。そして約束通りに彼らに聖霊がくだりました。聖霊降臨です。この日はイエス様のよみがえられたイースターから 50 日目だったということなので、五旬節とよばれ、50 を意味するペンテコステという名前でお祝いします。

聖霊は何をして下さるのでしょうか。聖霊は弁護者、と書かれていましたね。私たちの弁護をして下さる、私たちのことを父なる神様にとりなして下さる、という働きです。14 章 26 節には聖霊は弁護者として、イエス様のお話しくださったことをことごとく思い起こさせて下さるということが教えられています。イエス様がお話しくださったことを、聖霊は私たちに思い起こさせてくださって、その真理の言葉によって私たちを励まし、強めてくださいます。イエス様が地上を去って行かれたあとイエス様が約束してくださったとおりに送られてきた聖霊によって、弟子たちはいつもイエス様の語られたことを思い起こさせられて励まされ、強められて、互いに大切にしあい高め合って、世界に救い主イエス・キリストを伝えて歩きました。聖霊はイエス様のことを私たちに思い起こさせて下さる霊なのです。イエス様はまた私たちを迎えるために場所が用意出来たら戻ってきてくださいます。そして弟子たちがイエス様の昇天を見たと同じありさまで再びイエス様が帰ってこられるまで、聖霊様がイエス様のことを思い起こさせてくださいます。

使徒の働き 2 章では、聖霊を受けた使徒たちが集まっていた人にイエス様が救い主であることを大胆に話しました。人々は心打たれて、どうしたら救われるのですか、とペテロたちに尋ねました。使徒の働き 2 章 38 節にはそのときのペテロの応答が記されています。少し長いですが、次のようなことばです。

「悔い改めなさい、めいめい、イエス・キリストの名によって洗礼を受け、罪を赦していただきなさい。そうすれば賜物として聖霊を受けます。この約束はあなたがたにもあなたがたの子供にも、遠くにいるすべての人にも、つまり私たちの神である主が招いて下さる者ならだれにでも、与えられているものなのです。」

その日、たくさんの方が悔い改めて洗礼を受けました。そして約束の聖霊を受けました。彼らは集まって、イエス様のことばを使徒たちから聞き、互いに愛し合い、共に聖餐にあずかり、よく祈りました。

ペンテコステの日に、イエス様が約束してくださったことが現実になって、その日以来、今までその約束は生きて働いています。

イエス様はかつて、ご自分を見たものは父なる神様を見たのです、とおっしゃいました。神様は目に見えないお方、むしろ目に見えるもの、みえないものをすべておつくりくださって支えていて下さるお方です。イエス様は神様であられるのに、人となってくださいました。ですから、イエス様を見たら神様が見える、ということです。イエス様は私たちを愛して、ただしく罪を赦してくださいます。私たちの罪を背負って十字架に死んで、罪と死と悪魔の力に打ち勝ってよみがえってくださいました。私たちに罪の赦しと新しい命をあたえてくださいます。私たちの目に見えない神様は、イエス様を私たちの救い主として与えてくださったほど私たちを大切にしてくださいている方であることがイエス様によってはっきりとわかりました。

しかし、そのイエス様は天に帰って行かれ、再び帰ってこられるまでは私たちはイエス様を肉眼で見ることはできません。どうしたらいいのでしょうか。

それは悔い改めて、イエス・キリストの名前によって洗礼にあずかり、罪を赦していただくことです。そうすれば聖霊を受ける、と約束されています。聖霊はイエス・キリストの語られた約束を私たちに思い起こさせてくださり、そのみ言葉によって私たちのうちにイエス様を信頼する信仰を作り、強めてくださり、イエス様がおっしゃったとおり永遠に私たちの弁護者としてともにいてくださいます。

私たちはイエス様を見ていませんが、今も生きておられるイエス様を信じているので、その命に生かされています。そして私たちを大切にしてくださいるイエス様に感謝をしているので「互いに愛し合いなさい」と言われたイエス様のおきてを喜んで守ります。

反対する人、理解できない人もいます。世の人は聖霊のことを知ろうとしない、と書かれていましたね。イエス様を信じる信仰にあまり理解のない方とは少し話しにくいと感じることもあるかもしれません。でも、洗礼によって正しい良心をいただいた人は、いつでも穏やかに、敬意をもって、正しい良心で自分に与えられているすばらしいイエス様の福音を弁明します。カんで自分を失ってしまうのではなくて、聖霊が思い起こさせてくださるイエス様を落ち着いて穏やかにお分かちすることができるように導いてくださいます。

最後の晩餐のとき、お弟子たちはこのような聖霊が与えられることをイエス様から聞いていました。そのときはよく理解できなかったのでしょうか。けれどもイエス様の約束はあとで思い起こしたお弟子たちに実際に働いて、よみがえられたイエス様が天に昇られた後、聖霊によってはつらつといのちをかけてイエス様の証人としてたくさんの人にみ言葉を伝えました。でも、異様な激しさ、自分だけしか見えていない異常さ、常識を逸したのめりこんだ姿ではなくて、穏やかで、人々を尊敬しながら、正しい良心をもってイエス様のことを分かち合っていました。私たちにも同じ聖霊が与えられます。ほんとうに感謝ですね。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをまもってくださいます。アーメン。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

讃美歌 529 番

1. ああうれし、我が身も 主のものとなりけり 浮世(うきよ)だにさながら 天つ世の心地す
 <繰り返し>
 歌わでやあるべき 救われし身の幸(さち) たたえでやあるべき 御救いのかしこさ
2. 残りなく御旨(みむね)に まかせたる心に えも言えず妙(たえ)なる 幻を見るかな
 <繰り返し>
3. 胸の波 おさまり 心いと静けし 我もなく世もなく ただ主のみ いませり
 <繰り返し> **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用のかてを今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄の讃美歌 541 番

父、御子、みたまの大御神に、ときわにたえせず み栄えあれ、み栄えあれ。アーメン。

祝福のことば

仰ぎ来い願わくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、それぞれのところで共に礼拝にあずかっておられる一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、ゆたかにありますように。**アーメン**。